

総年表

1950 (昭 25)	東京で「吉野博士記念会」が発足.
1957 (昭 32)	古川高校創立 60 周年記念文化祭で文芸部が「吉野作造博士関係図書展」を開催.
1962 (昭 37)	吉野先生を記念する会 (会長: 三浦篤・古川市長) が発足.
1966 (昭 41)	吉野先生を記念する会が「古川学人吉野作造之碑」を建立 (除幕式: 11 月 27 日).
1969 (昭 44)	永澤喜一氏 (吉野先生を記念する会事務局長) が吉野作造著作・研究文献を古川市図書館に寄贈.
1978 (昭 53)	吉野作造生誕 100 年記念で古川市図書館が吉野作造資料展示コーナーが設置 (5 月). / 吉野博士生誕 100 年記念メダルが制作される.
1983 (昭 58)	吉野作造没後 50 年を記念した絵入官製はがきが発行される.
1986 (昭 61)	吉野先生を記念する会が吉野作造民本主義提唱 70 年を記念した講演会および宮城県高校選抜弁論大会を開催 (11 月 1 日).
1990 (平 2)	古川市議会で「吉野作造記念文化ホール建設基本計画策定委託料」を計上した予算案が可決, 基本構想を乃村工藝社が, 設計を山下設計東北支社が受託. 古川市と吉野先生を記念する会が「吉野作造に関する遺稿等収集事業委託契約」を締結. / 古川市教育委員会が古川第一小学校前に吉野に関する解説パネルを設置 (5 月). / 市民アンケート「古川の誇りベスト 40」(古川市)で「吉野作造博士」が 2 位になる. / 古川市が市制 40 周年記念事業として吉野作造記念館に日本庭園, 河川公園を併設した「市民の憩いの場」を建設する構想を発表 (8 月 18 日). / 「(仮称) 吉野作造記念館建設委員会」(委員長: 中川孝治郎・古川市議会総務常任委員長, 副委員長: 永澤喜一・吉野先生を記念する会事務局長) が設置される (9 月 14 日).
1991 (平 3)	古川市が吉野作造記念館建設の基本構想をまとめる. / 大崎タイムス社の米城清司社長が, 古川シャンソンの会 (会長: 落合利恵子氏) から寄せられた記念館建設のための寄附金 6 万 5 千円を古川市に寄附 (7 月 11 日).
1992 (平 4)	古川市・大崎地域広域行政事務組合・吉野先生を記念する会の共催で「21 世紀に向け大正デモクラシー 吉野作造博士の時代の先見性を語る」フォーラムを開催, フォーラム内で施設名称についてアンケート実施, 「吉野作造記念館」が 84 % となる (1 月 29 日). / 吉野作造記念館建設委員会で建設事業概要が承認される (3 月 5 日). / 古川市長選挙で中川俊一が当選 (3 月 20 日). / 中川俊一新市長が財政難を理由に記念館建設計画の縮小を表明, また吉野先生を記念する会会長を辞任 (6 月). / 古川ライオンズクラブが 30 周年事業で佐藤一郎氏による吉野作造肖像画を古川市に寄贈. / 古川市が記念館建設業務を一元化した「(仮称) 吉野作造記念館建設準備室」を設置 (9 月).
1993 (平 5)	白鳥兵一氏が吉野作造肖像画 2 点を古川市に寄贈 (6 月). / 吉野作造記念館建設工事の

	起工式が行われる（8月2日）。 / 藤門ゑくよ氏が自作画によるチャリティー絵画展の売り上げ50万円を、吉野作造記念館と高齢者福祉のために古川市に寄附（12月8日）。
1994（平6）	田澤晴子氏を研究員として採用（4月）。 / 古川ロータリークラブが『古川余影』復刻版制作費として154万円を古川市に寄附（6月）。 / 古川東ロータリークラブが創立15周年事業として「民本の鐘」を寄贈（9月8日）。 / 吉野作造記念館設置条例が制定される（10月1日）。 / 佐藤重行氏（財団法人佐藤病院理事長・院長）が古川市図書館図書購入費及び吉野作造記念館の設置を目的に300万円を寄附（11月1日）。
1995（平7）	仙北新聞（1月20日）が吉野作造記念館開館を大々的に報じる、また記念館設置にあたっての寄附者のまとめ（上述の他、古川ライオンズクラブ：「館名碑」、古川ライオンズクラブ：吉野作造肖像画、佐藤利市氏：サクラ植樹費30万円、吉野敏郎氏：関係図書購入費100万円など）を掲載。 / 吉野作造記念館開館記念式典を開催、三谷太一郎氏記念講演「吉野作造と現代」ほか、また記念館前に「古川学人吉野作造之碑」が移設される（1月29日）。 / 岩波書店が『吉野作造選集』の配本を始める（5月）。 / 阿部徳夫氏が福沼2丁目の交差点に吉野作造記念館への案内板を設置（6月24日）。
1996（平8）	吉野先生を記念する会が『故吉野博士を語る』復刻本1,000部を古川市に寄贈（1月11日）。
1997（平9）	天皇・皇后両陛下来館（5月19日）。 / 「生涯学習ピアノの会」が吉野作造ブロンズ像建立のため大崎タイムス社を通じて5万円を寄附（7月3日）。 / 小・中学校移動企画展として「吉野作造の生涯」を実施、古川第一小学校、東大崎小学校、古川第四小学校、長岡小学校、古川第三小学校等で実施（12月）。
1998（平10）	井上ひさし氏が名誉館長に就任（4月1日）。 / 古川ロータリークラブが創立40周年記念事業として吉野作造生家跡地にモニュメントを設置。
1999（平11）	古川東ロータリークラブがソメイヨシノ3本を寄贈（7月8日）。 / 「吉野作造・声のライブラリー」視聴コーナーを設置（11月4日）。 / 古川東ロータリークラブが20周年記念で「学人の塔」を建立。
2000（平12）	古川市長選挙で佐々木謙次氏が当選、中川俊一前市長が離任式で吉野作造の言葉「人世に逆境はない」に触れて挨拶（3月）。
2001（平13）	「郷土の偉人吉野作造を伝える」パネルディスカッションを開催（1月28日）。 / 細川松三郎顕徳碑が古川市の有形文化財に指定される（5月）。 / 古川青年会議所・市民会議「すきです古川わたしの広場」・古川市の主催による市民フォーラム「古川市の民間委託について」が開催される（11月23日）。
2002（平14）	吉野作造記念館設置条例の改正により「吉野作造記念館条例」が制定される（4月1日施行）。 / 吉野作造記念館の運営が特定非営利活動法人古川学人（NPO古川学人）に委託される（4月1日～）。 / 読売吉野作造賞受賞者・猪木武徳氏（現特別顧問）による講演会「民主主義と人材育成」を開催（11月10日）。
2003（平15）	収蔵庫に内鍵を設置、また図書管理システムを導入。（2月） / 井上ひさし作「兄おとうと」が紀伊国屋ホール、川西町フレンドリープラザ、一関文化センター、気仙沼市市民会館で上演される（5～6月）。 / 記念館ウェブページに子供用コーナー「はかせのため

	ご」を追加（11月）.
2004（平16）	吉野家から遺品資料 36 を受贈（1～3月），またこれを受けた新収蔵資料展を開催（3月21日～4月18日）. / 『吉野作造記念館研究紀要』を創刊（3月）. / 竹中美津子氏，和泉敬子氏から寄附金を受納（4月）. / 鈴木大吉氏より寄附金を受納（7月）. / NPO古川学人が第3回みちのくPR大賞を受賞（11月）. / 記念館資料の一部と橋平酒造店資料の一部を東北歴史博物館へ燻蒸のため搬出（11月）. / 吉野作造記念館ロゴマーク募集事業の表彰式を開催（11月20日），鈴木寛氏が受賞.
2005（平17）	公募ロゴマークの応募作品 183 点を展示公開（1月29日～2月27日）. / 古川市が吉野作造記念館を含む市内4施設の指定管理者募集を開始（8月1日）. / NPO古川学人が吉野作造記念館の指定管理者に選定される（通知は11月25日，議会承認は12月9日）.
2006（平18）	古川市閉市記念で井上ひさし作「兄おとうと」（こまつ座）が古川市民会館で上演される（主催：古川市教育委員会，共催：NPO法人古川学人，3月13日）. / 吉野家から遺品資料 29 点を受贈，孫文書額「天下為公」等（3月29日）. / 吉野作造記念館の運営が指定管理者制度に移行（3月30日）. / 田澤晴子『ミネルヴァ日本評伝選 吉野作造一人世に逆境はない』刊行（7月）. / この年から中学生招館事業（大崎市共催）を開始.
2007（平19）	吉野作造研究論文公募事業の募集を開始（6月） / 第1回吉野ネットワーク交流事業人材育成研修会を開催（9月6～8日）.
2008（平20）	古川ロータリークラブ創立 50 周年事業で古川ロータリークラブ・吉野作造記念館・藤城清治影絵展開催実行委員会主催，大崎市・大崎市教育委員会・大崎地域広域行政事務組合共催による藤城清治版画展「光と影のシンフォニー」を開催（4月26日～5月25日），藤城清治氏によるトークショー，サイン会（5月18日）等も. / 吉野作造研究論文募集事業表彰式，最優秀賞の堅田剛氏が受賞記念講演（9月13日）.
2010（平22）	井上ひさし名誉館長が死去（4月9日）. / 井上ひさし名誉館長追悼講演会として遠藤征広氏講演会「遅筆堂文庫物語—小さな町に大きな図書館ができた」を開催（6月19日），また展示コーナーを設置（～9月30日）.
2011（平23）	東日本大震災発生（3月11日）. / 震災義援金を募集するチャリティーイベントを実施（5月4・5日）. / ドキュメント映画「太陽と月と～私たちの憲法の情熱」の上映会を開催（8月6日）. / 建築遺構再生研究推進体空間史学研究会との共催でシンポジウム「大崎市岩出山有備館の復興」を記念館で開催（8月20日）. / トークセッション「わたしたちの道程—未来を歩むために」を記念館で開催，大野太輔氏（NHK）による震災関連ドキュメンタリーの上映・解説など（9月10日）. / 映画上映会「宮城からの報告—子ども・学校・地域」を記念館で開催，「わたしはここにいます～石巻・門脇小学校・夏」（青池憲司監督）の予告編上映など（12月10日）.
2012（平24）	大崎の「宝」＝「人」プロジェクトが平成 24 年度宮城県新しい公共の場づくりのためのモデル事業に採択される（4月）. / 企画展「末は博士か大臣か」（5月27日～7月29日）で独立行政法人経済産業研究所が共催，東北電力株式会社が企画展協賛，東北経済産業局が後援. / 被災地へピアノをとどける会からアップライトピアノの寄贈を受ける

	(7月4日) / エブリー♪おおさき(鉄本由美代表)と共催でファン・リレーション in 吉野作造記念館を開催(8月11日)。 / おおさき宝大使の斎藤吾朗氏が絵画「幸せの黄色いポスト」を大崎市に寄贈し、記念館廊下に展示(9月21日)。
2013(平25)	村井嘉浩宮城県知事、伊藤康志大崎市長が来館し、記念館所蔵中国関係資料等を見学(2月2日)。 / 休憩ラウンジ活用事業としてNPOハッピーート大崎との協働による健康相談コーナーを開設(3月～)。 / 『吉野作造記念館所蔵資料目録(2012年度版)』を発行(3月)。 / 企画展「明治文化研究の奇人変人たち」(5月26日～7月28日)で東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫が共催、株式会社博報堂が企画展協賛。 / 日中文化交流シンポジウム「吉野作造と近代中国」を記念館で開催(8月2・3日)。 / 企画展「吉野作造と近代中国」(10月27日～12月28日)で東北大学史料館が共催。 / 吉野作造研究論文公募事業をリニューアルした吉野作造研究賞で、最優秀賞・趙星銀氏による受賞者講演会を開催(11月17日)。
2014(平26)	常設展示資料の大規模入替(1月12日)。 / 「大崎っ子はぐくみ事業」(大崎市教育委員会)として、古川中学校、大崎市教育委員会、吉野作造記念館の協力により志教育教材「おおさきの先人 吉野作造」を作成、県内の小中学校に配布(2月)。 / 企画展「吉野作造とキリスト教」(5月25日～8月3日)でライオン株式会社が共催、来場者にライオン株式会社から歯磨きセット贈呈。 / 記念館所蔵・唐紹儀書額「舒卷忘食」の修繕に関し、公益財団法人朝日新聞文化財団・文化財保護助成に採択される(9月)。 / 企画展「吉野作造と賀川豊彦」(10月12日～12月28日)で賀川豊彦記念松沢資料館が共催。 / 南開大学(中華人民共和国・天津市)で日中文化交流シンポジウム(サントリー文化財団採択事業)を開催(12月20日)。
2015(平27)	大崎市・大崎市教育委員会の主催、NPO古川学人の企画により吉野作造記念館開館20周年記念式典を開催、三谷太一郎氏(東京大学名誉教授)による記念講演「晩年の吉野作造―国内および国際情勢の変化への対応」など(1月29日)。 / 三谷太一郎氏がNPO古川学人に100万円を寄附(5月26日)。 / 新公開資料展「唐紹儀書額「舒卷忘食」(公益財団法人朝日新聞文化財団)を開催(8月4日～12月27日)。 / 前年度企画展に基づく移動展「賀川豊彦と吉野作造」がヒューマンわーくびあ徳島で開催(9月28日～10月9日)。 / 企画展「戦後70周年記念 井上ひさしと戦後日本の平和」(10月11日～12月27日)で井上事務所が共催、仙台文学館・遅筆堂文庫が特別協力。
2016(平28)	古川学園高校普通科総合コース3年生が主権者教育を目的に来館(1月15・20日)。 / 論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」の復刻が『中央公論』の特別付録になる(1月)。 / 宮城県登米高校で主権者教育を目的とした出張講話を実施(3月17日)。 / 企画展「暮らしの向上を求めて」(5月29日～8月7日)でみやぎ生活協同組合が共催。 / 企画展「自由を愛し、平和を貫く」(10月9日～12月28日)で駐仙台大韓民国総領事館が後援。 / 吉野先生を記念する会が民本主義100年記念としてシダレザクラを記念植樹(10月30日)。 / 所蔵資料54点が「吉野作造関係資料」として大崎市有形文化財に指定される(11月1日)。 / 駐仙台韓国総領事・梁桂和氏が来館(11月10日)。

2017 (平 29)	大崎市有形文化財に指定された「吉野作造関係資料」54 点を記念公開 (2 月 1 日～28 日). / 第 1 回の憲法記念日講演会を開催, 講師に中林暁生氏 (5 月 3 日). / 日本経済思想史学会第 28 回大会が吉野作造記念館を会場に開催される (6 月 10・11 日). / 我妻建設株式会社からの寄贈で記念館前広場に自転車置き場を設置する (6 月) / 企画展「90 年前の清き一票—普通選挙のはじまり」(10 月 8 日～12 月 28 日) で公益財団法人明るい選挙推進協会・宮城県選挙管理委員会・宮城県教育委員会が後援. / NPO 法人シナプス 4 0 主催 (NPO 古川学人共催) による「共生社会の実現に向けた市民フォーラム 2017」を開催 (12 月 10 日).
2018 (平 30)	美里町近代文学館・吉野作造記念館の共同事業として企画展「みやぎの先人大集合! ～吉野作造と千葉亀雄」(美里町教育委員会・大崎市教育委員会共催) を開催 (1 月 16 日～26 日: 美里町近代文学館, 1 月 28 日～4 月 28 日: 吉野作造記念館). / 第 1 回吉野作造検定を開催 (1 月 28 日). / YOSHINO オリジナルコーヒーの販売を開始 (1 月 28 日). / 生誕記念イベントに関連し, 吉野作造生家跡 (吉野ポケットパーク) でイベント開催, 餅撒き等 (1 月 29 日). / 常設展示室映像設備の入替工事, (株)チバミンから大崎市への寄附によるもの (2 月). / 宮城県教育委員会制作の副教材『みやぎの先人集第 2 集「未来への架け橋」』で吉野作造が取上げられる (3 月). / 角田支援学校高等部で生徒・保護者を対象としたシティズンシップ教育の講習会を開催 (5 月 23 日). / 企画展「働く人の権利を求めて」(5 月 27 日～8 月 5 日) で友愛労働歴史館が共催. / 「選挙について考えてみよう—日本学術会議サイエンスカフェ in 吉野作造記念館」を開催 (7 月 29 日). / 写真展「櫻井一郎が見た満洲」(10 月 14 日～12 月 2 日, 竹葉丈氏監修) で毎日新聞が後援, 日本経済新聞社・テレビ愛知が協力, 名古屋市美術館が特別協力.
2019 (令 1)	企画展「時代をつくった女性たち」(1 月 6 日～3 月 24 日) で公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センターが後援. / 第 1 回吉野作造記念おおさき社会貢献大賞の表彰式を開催, また「吉野作造かるた」を完成披露 (1 月 27 日). / 高校生デモクラシー塾第 2 期として「大崎高校生ミライカイギ」(公益財団法人カメイ社会教育振興財団助成事業) を実施 (5 月 5 日～). / ゴールデンウィークイベントで人形劇「ケロッキーブー」とコラボレーションした子ども投票体験を初めて実施 (5 月 5 日). / 企画展「民衆とともに生きる—吉野作造・布施辰治と復興の精神」(7 月 14 日～9 月 22 日) で石巻市・石巻市教育委員会が後援. / 第 1 回吉野作造記念高校生弁論大会 (兼第 6 回宮城県高等学校弁論大会, 宮城県高等学校文化連盟共催) を開催, 県内 8 校から 10 名の高校生弁士が出場 (12 月 14 日).
2020 (令 2)	社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」(宮城県共同募金会) を通じた寄附金募集を実施 (1 月 1 日～3 月 31 日), 65 万 4,987 円の寄附を受納 (以降, 毎年度実施). / 企画展「尚志」(1 月 12 日～3 月 22 日 *新型コロナウイルス感染症対策のため 3 月 2 日以降閉会) で東北大学史料館が共催. / 吉野作造記念館生誕記念イベントで, 第 2 回おおさき社会貢献大賞表彰式とあわせて第 1 回吉野作造フェローシップの採用企画を発表 (1 月 26 日). / 新型コロナウイルス感染症対策のため大崎市教育委員会の指導によ

	り展示室を閉鎖、またイベント等を中止（3月3日～5月11日）。 / 大崎市教育委員会により「吉野作造記念館資料の取扱要領」が施行される（3月3日）。 / NPO古川学人が公益財団法人明るい選挙推進協会・優良活動賞を受賞（3月9日）。 / 「吉野作造記念館資料の取扱要領」を踏まえ初めての資料台帳提出を実施（3月19日）。 / 『吉野作造記念館だより』28号でNPO古川学人の事業構想図「NPO法人古川学人がめざすもの—3つの作造〈つく〉る」を掲載（4月）。 / 大崎市教育委員会の指導により、新型コロナウイルス感染症対策のため館内の利用を制限（4月15日～5月11日）。 / 開館25周年記念事業「親子で選挙に親しめる絵本を作り、未来の有権者を育てたい」に向けたクラウドファンディングを実施（8月31日～9月30日）、179の個人・団体から234万円の寄附金を受納。 / おおさき芸術コンクールチャリティ展覧会を開催（11月1日～）、6作品を表彰（表彰式：11月22日）。 / 明るい選挙推進協会・若者リーダーフォーラム（明るい選挙推進協会主催、総務省共催）の北海道・東北ブロックが吉野作造記念館で開催され、氏家仁館長、小嶋翔主任研究員が「博物館施設を活用した主権者教育—地域社会・公教育との連携」でパネル発表（12月13日）。
2021（令3）	後期企画展「災害と復興のおおさき近現代史」（1月17日～3月28日）で、新型コロナウイルス感染症対策として来場者のスマートフォンで利用できるオンライン音声ガイドを導入。 / 七十七銀行「77社会貢献私募債（寄付型）」により株式会社北都開発（渡辺俊代表取締役）からNPO古川学人に対してデスクトップPC、ノートPC、プロジェクターが寄贈される（1月26日）。 / おおさき芸術コンクールチャリティ展覧会を通じた募金活動により新型コロナウイルス感染症対策のため3万円を大崎市に寄附（1月29日）。 / 読売・吉野作造賞受賞者講演会が、コロナ禍の影響により初めてオンライン開催（4月18日）。 / 企画展「吉野作造と後藤新平」を開催（7月18日～9月26日）、奥州市立後藤新平記念館が特別協力。 / 宮城県選挙管理委員会主催による高校生選挙啓発活動サポート事業（7～2月、業務実施受託者：NPO古川学人）、2022～23年度も同様に開催。 / 第1回吉野作造ジュニア検定（7～8月）。 / 第1回おおさき作文コンクール作品募集（7～9月）。 / 国文学研究資料館主催「アーカイブズカレッジ（史料管理学研修会）」に小嶋翔主任研究員、佐藤弘幸学芸員が参加（7～9月）、2022年度も引き続き参加。 / 開館25周年記念事業として親子で選挙に親しむ絵本『ケロッキーパーとおおきなあな』を刊行（7月31日）。 / 第14回吉野ネットワーク交流事業人材育成研修会（9月17～18日）がコロナ禍の影響により初めてオンライン開催、併せて参加者を対象とした研究助成事業（2022年度も全日程オンラインで開催）。 / 絵本『ケロッキーパーとおおきなあな』原画展を開催（10月5日～17日）。
2022（令4）	企画展「公文書で見る明治時代のみやぎ」（3月13日～4月24日）で宮城県公文書館が特別協力。 / 絵本『ケロッキーパーとおおきなあな』パネル展 in 大崎市図書館を開催（3月18日～4月14日、以後、各地で不定期に開催）。 / 吉野作造小・中学校巡回パネル展、古川第一小学校（3月9日～4月15日）、古川中学校（3月9日～4月24日）を皮切りに翌3月までに大崎市立の小・中学校33校を巡回。 / NPO古川学人による地域への教育貢献に対し大崎市教育委員会から感謝状が贈られる（3月17日）。 / 前期学

	芸体験講座「資料読解～吉野作造の手紙を読んでみよう」(5月22日・6月19日)を開催。 / NPO古川学人創立20周年記念式典(5月28日)。 / 企画展「吉野作造と宮城県尋常中学校の仲間たち」(7月24日～9月25日)で一関市博物館、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第一高等学校同窓会が協力。 / 小松清氏旧蔵明治文化研究会関係資料、東京吉野家旧蔵資料などが上田雪子氏より寄贈される(7月)。 / 古川第一小学校教員研修が吉野作造記念館で行われる(7月27日)。 / 後期学芸体験講座「市民で作る企画展」第1回を開催、大崎市文化財「加藤家文書」の読解と後期企画展の一部展示の作成(10月～12月)。 / いぬねこ十一番地実行委員会主催「いぬねこ十一番地」を開催(10月23日)、NPO古川学人が協力。
2023 (令5)	企画展「我が町おおさきの歴史・文化(第1回 戦争篇)」(1月29日～3月26日)。 / 大崎市教育委員会主催による吉野作造生誕145年記念給食(2月13日)を実施、吉野作造記念館が協力。 / 美術展「やさしいアートの世界―姉齒公也・菅原暢子 二人展」を開催(5月5日～14日)。 / 企画展「戦後の吉野作造『再発見』」(7月23日～9月24日)。 / 第16回吉野ネットワーク交流事業人材育成研修会(9月1日～3日)、4年ぶりとなる合宿形式での開催。 / 絵本『ケロッキーブーとおおきなあな』が第26回日本自費出版文化賞グラフィック部門に入選(表彰式は11月11日)。 / 古川第一小学校創立150周年事業実行委員会主催「タイムカプセル復活!? 蘇った50年前のアルバム展」(12月1日～3月24日)、吉野作造記念館が協力。
2024 (令6)	企画展「我が町おおさきの歴史・文化(第2回 学校篇)」(1月28日～3月24日) / 第1回高校生政策提言発表会(1月28日)を開催。 / 美術展「むじゃきなアートの世界―新田亜紀子・菅原暢子 二人展」を開催(6月12日～26日)。 / 令和6年度高校生デモクラシー塾第1回ワークショップを開催(7月7日)。 / 企画展「明治文化研究会100周年記念新収蔵資料展」(7月28日～9月23日) / 古川第一小学校・古川中学校教員研修が吉野作造記念館で行われる(7月31日)。
2025 (令7)	吉野作造記念館開館30周年記念式典を開催(2月1・2日)。

吉野作造記念館30周年史編集委員会

(2023年7月12日設置)

委 員

委員長	佐藤 俊明 (特定非営利活動法人古川学人理事長)
副委員長	高橋 和広 (大崎市教育委員会地域交流センター長)
副委員長(専門委員)	氏家 仁 (吉野作造記念館館長)
委 員	菅原 美紀 (特定非営利活動法人古川学人専務理事)
委 員	佐々木 威 (特定非営利活動法人古川学人財務理事兼吉野作造記念館事務長)
委 員(専門委員)	小嶋 翔 (吉野作造記念館主任研究員)
委 員(専門委員)	佐藤 弘幸 (吉野作造記念館学芸員)
委 員(専門委員)	後藤 彰信 (柴田町文化財保護委員)
委 員(専門委員)	金野 文彦 (郷土史研究家)

各章の執筆主担当者

第1章	金野 文彦
第2章・第3章	佐藤 弘幸
第4章	後藤 彰信・佐藤 弘幸
第5章	小嶋 翔
資料編	佐々木 威・小嶋 翔・佐藤 弘幸

*各章とも上記担当者を主たる執筆者としつつ、編集の過程で編集委員会の責任により適宜加筆・修正等を加えている。

*資料編の作成にあたっては一部で大崎市教育委員会の協力を得た。また、本書編纂に向けた文書整理作業や本書の校正作業では、上記委員以外に吉野作造記念館職員の本間明美氏・菅原暢子氏も分担に加わった。

吉野作造記念館 30 年史

2025年2月1日 発行(非売品)

発行 大崎市

編集 吉野作造記念館30周年史編集委員会

〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1-2-3

吉野作造記念館(特定非営利活動法人古川学人指定管理)

印刷 内藤印刷株式会社